

コミュニケーションテスト OPIc オンサイト実施の 振り返りから、次へのつながりを展望する

八木 智裕 A

1. はじめに

前職の NECにおいて、グローバル人材育成・選抜を考える際、英語スキルの中でも即時対応の要素が強いスピーキングにおいて、スキルはもとよりそのスキルに起因すると思われるコミュニケーションに対する積極性に課題意識を覚えた。そこで、数あるスピーキングテストの中でも、主に海外においてではあるが豊富な実績があり、従来に無い Adaptive 形式のテストとして英語スピーキングテスト OPIc を現状把握・育成効果測定に向け採用した。その結果として、当学会とも 2014 年賛助会員として入会以来様々な形で「つながり」を模索すると共に、OPIc 活用の実態や効果の可視化も紹介させて頂いた。学習者自身のコミュニケーションスキルの現状認識と、自らの将来計画を見据えた目標設定を行うことの意義を、ここ 3 年の振り返りを踏まえ、次への「つながり」を展望する形で考察を試みたい。

2. 英語コミュニケーションテスト OPIc 概要

2.1 OPIc テストとは

英語コミュニケーションテスト OPIc とは、全米外國語教育協会 (American Council on the Teaching of Foreign Languages:ACTFL) が開発した汎言語的に使える会話能力テスト OPI(Oral Proficiency Interview) をベースにした iBT(internet based test) 形式のテストである。世界 100 ケ国以上で導入され、すでに約 150 万人を超える人が受験しており、CBT(Computer Based Testing)ベースのコミュニケーションテストとして世界最大級の実績を有する。

ACTFL の長年の経験に基づき、受験者の学習・到達レベルを測るべく、以下の点においてユニークな工夫がされている。①出題内容は Background Survey を通じた個人に合わせた問題、②問題数や難易度は当日自ら選んだ 6 段階のレベルに応じてランダムに生成される、③所要時間はオリエンテーション・準備で 20 分

と、テストは最大 40 分の計 60 分で構成される。テスト問題が原則オープンエスチョンの為、従来のマークシートに馴染んだ学生は最初違和感を感じるもの、幅広く能力を引き出すことを可能にしている。④コミュニケーション継続能力、文章校正力、状況に応じた表現力、質問意図の把握能力、文法・語彙・流暢さ・発音、この 5 つを考慮しながら、ACTFL Speaking Guidelines2012 基準に準拠し、受験者の会話能力を総合的に評価して OPIc Level 1~7(Novice Low~Advanced Low) でフィードバックされる。

2.2 OPIc テストの有用性について

中央教育審議会では、平成 26 年 12 月 22 日の第 96 回総会において、「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(答申)」を取りまとめた中で、国際共通語である英語について、4 技能を総合的に育成・評価することが重要とした。しかし、広くセンター試験で評価されてきた「読むこと」・「聞くこと」に比べて追加予定の「書くこと」・「話すこと」に関しては、文部科学省の実施した「平成 26 年度英語力調査(高校 3 年生)」においても、「話すこと」についての評価は難しく、「書くこと」に対しての 24% の実施率に終わっている。また「話すこと」に関する生徒の英語力も CEFR ベースで 87.2% が A1 レベル以下であった。

「話すこと」の課題解決策として、高校一大学一企業の「つながり」が重要と考える。英語の最大利用国アメリカの高校・大学における外国語修得・卒業基準や、アメリカ政府が制定する卒業後の職務遂行基準は ACTFL(OPIc)ベースで表 1 のようにまとめが出来る。グローバル人材育成教育学会の設立趣旨からして、OPIc は高校一大学一企業を効率的に「つなぐ」ことに供するスピーキングテストと考える。

表1 ACTFLによる学校履修目安と
US政府が定める職務基準の関係

レベル名	今日実現済 用語	言語能力	米国での職務ガイド	修得対象	YSLR達成 ガイド
Advanced Low(AL)	9	自分の考えや経験を流暢に表現できる。討論や交渉、説得など実際の業務で駆使できることがある。	Customer Service Agent, Social Worker, Client Processor, 2nd Sergeant, Tax Examiner, Police Officer, Maintenance Administrator, Billing Clerk, Legal Secretary, Legal Receptionist	Undergraduate language majors with year-long study abroad experience	1320h
Intermediate High(HI)	8	文法的に大きな間違いがない無く言語を駆使し、基本的なビジネスや会議でコミュニケーションができる。	Auto Inspector, Aviation Personnel, Missionary, Tour guide	Undergraduate languages majors with year-long study abroad experience	
Intermediate Mid(M)～(HI)	7 6 5	小さな文法的ミスはあるものの、良いセテンスを駆使し、基本的なコミュニケーションができる。 (M6(上), M6(中), M1(下)に翻訳化)	Cashier, Sales clerk/highly predictable contexts Receptionist, Housekeeping Staff	12hangers after 6-8 year sequences of study/AP etc. 4-6 semester college sequence	480h
Intermediate Low(LL)	4	日常的な会話はセテンスで話すことができる。会話に参加し、興味のある話題は自信を持って話すことができる。		12hangers after 4 year high school sequence or 2 semester college sequence	
Novice High(HH)	3	簡単な単語や句を駆使してコミュニケーションができる。			
Novice Mid(MM)	2	既に複数している単語やセテンスで話すことができる。			
Novice Low(LL)	1	限定的ではあるが、単語を羅列して話すことができる。			

3. OPIc オンサイトテスト実施方法、利便性と課題

3.1 OPIc オンサイトテスト実施方法

対象者が多数の場合は CALL 教室利用を前提とし、CALL 教室の無い学校や小規模の受験においてはモバイル PC を活用する等、ACTFL テスト規定を逸脱しない範囲で、実施機会の提供を最優先に考え柔軟に対応を行ってきた。

3.2 OPIc オンサイトテストの利便性

「平成 26 年度英語力調査（高校 3 年生）」においても、特に「話すこと」についての評価が難しいことは前述の通りである。しかしながら学習機会のみならず、適切なタイミングでの評価機会を増やすことは学生の学習意欲喚起の観点からも効果が大きいと考える。

学校においてはタイミング良く学習効果を測定する意味で、企業においては業務遂行に支障を与えない観点でオンサイトテストの寄与度は大きい。

又、日本のグローバル人材育成教育を考える際、地方においては機会のハンディキャップは著しいが、ICT 環境・リテラシーの課題はあるもののインターネット技術を有効活用して、都市部と同質の機会提供を行えることの意義も大きいと考える。

3.3 OPIc オンサイトテストの課題

高校においては、未だ教科「情報」のための PC 教室しか無いケース多く、音声系のメディアを使うにはヘッドセットや LAN 環境が充分で無いケースが見受けられる。

大学においては、CALL 等の視聴覚教室環境設営や更新が困難なケース、並びに一部講師においては操作に不慣れなため活用に前向きで無い例も見受けられる。

企業においては、セキュリティーを理由に音声系のメディアを企業内インターネットでは利用不可とするケースが多い。

これらは OPIc のオンラインテスト課題と云うより、日本において ICT・CBT を如何に利活用するかの共通課題であるようにも思える。

4. グローバル人材育成教育学会と OPIc オンサイトテストの「つながり」振り返り

グローバル人材育成学会で「つながった」結果として実施した OPIc オンサイトテスト実施の一部を高校、大学、企業並びに支部（地域）の視点で表 2 において、振り返り紹介する。

表2 会員との OPIc による「つながり」高校、大学、企業分類並びに地域視点での一部紹介

サイト名	分類	支部(地域)	備考
北海道情報大学	大学	北海道	2016/12/11第四回全国大会 マレーシア短期語学研修
桐蔭学園	高校	関東	日本語OPIc
名古屋大学	大学	中部	E-learningからテレビ会議交流へ
関西大学	大学	関西	KU-COIL
西九州大学	大学	九州	2017/8/17第四回九州支部大会 2017/8/16GCE(OPIc)公開 8/17日本語OPIc
NEC	企業	賛助	2014/11/16第二回全国大会招待講演 2015/8/8第二回北海道支部大会発表 2015/11/13第三回全国大会発表
English Central	企業	賛助	個人受験会場連携

5. 次への「つながり」を展望する

昨年 9 月末の定年退職を機に NEC より OPIc サービスの移行了解を得て、OPIc を核としたグローバル人材育成事業を目的とした現法人の立上げを行った。日本への外国人留学生・企業人材向けの評価のための日本語 OPIc を追加サービスメニューとすることにより、双方向にグローバル人材育成に貢献出来ると考える。

1 つの仮説としてマーケティングのキャズム理論（普及率 16% の理論）を意識した、グローバル人材育成変化の喚起（発信型スキル・意識の評価やそのレベルを軸とした）を促していく。本学会においても、まだまだ 1 術% の普及率ではあるが、ユニークなネットワークを活用することにより実現を図っていきたい。

引用・参考文献

- 1) 平成 26 年度英語力調査（高校 3 年生）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/07/03/1358071_01.pdf (参考 URL 全て 2017 年 7 月 25 日参照)
- 2) E-learning からテレビ会議交流へ
http://geosk.info/htdocs/?page_id=36
- 3) 八木智裕(2017).外国語コミュニケーションに対する自己認識開示と客観的評価提供による学習方法の変革に向けて(日本英語教育学会・日本教育言語学会第 47 回年次研究集会)
<http://global8.or.jp/JELES47.pdf>